

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200202		
法人名	有限会社 ヒューマンケア		
事業所名	グループホーム 小春の家		
所在地	〒822-1402 福岡県田川郡香春町大字鏡山268番地 TEL0947-32-7889		
自己評価作成日	平成23年3月28日	評価結果確定日	平成23年05月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年04月21日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は敷地内が広く、お堂が建ててあり利用者・職員が一緒にいつでもお参りをしたり散歩を楽しむ事が出来る。周辺は静かで落ち着いた生活ができ、居間からは第一香春岳が見え紅葉時期や四季折々の匂いや景色を眺めることができる。職員と利用者が助け合い協力し合いながら生活を送り信頼関係を築けるよう支援している。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム 小春の家は新緑の第一香春岳が望め、居ながらにして、四季を五感で感じることが出来る郊外にある。特別養護老人ホームを母体とした、複合施設とのメリットを活かした連携は、利用者や家族から、安心して、いつまでも小春グループで暮らせるという、思いを叶えている。職員は、同じ目線で、利用者一人ひとりに合わせた介護を実践し、24時間医療連携と合わせ、健康管理体制は万全の物がある。特に、栄養士が作る料理は、栄養のバランスが取れ、味、色合い、形と三拍子揃ったご馳走は、利用者の健康の源となっている。また、代表、管理者、職員が、それぞれの立場で、利用者のことを考えて、優しく、見守りながら介護する姿は、家族や関係者の共感を呼び、安心して任せられるという信頼関係で満ち溢れ、今後益々期待が広がるグループホーム小春の家である。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、職員・管理者が理念を意識しサービスを提供している。	地域に根ざしたサービスを提供すると共に、利用者の自立した生活を目指し、利用者の人格を尊重し、個々に応じた介護を提供することを理念に掲げ、管理者、職員は理念の実現のために日々努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が立ち寄り姿はほとんどないが、町内保育所園児が演芸の披露へと来てくれる。	法人本部の納涼祭で地域住民と交流し、散歩中に近所の方と挨拶を交わしたり、また、保育園児の訪問によ演芸の披露など、交流の輪が広がっている。	地域の高齢化や利用者の重度化により交流が難しくなっているが、地域の行事などに職員が積極的に協力し、参加することで、信頼関係を築いていくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流がなく、認知症の方の理解は活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中で、各報告をし参加者から意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの現状、課題、行事予定など報告し、各委員から質問なども出され、活発な意見交換の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の取り組み内容等を、町役場の方に連絡を取り協力を頂いている。	運営推進会議に必ず行政職員が参加し、情報交換している。また、地域包括支援センター職員から空き状況の問い合わせがあるなど、連携体制がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内容をミーティング・勉強会にて理解し、ケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、虐待や拘束のない介護を実践するため職員同士で見守りを行い、利用者が安心して暮らせる支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内容をミーティング・勉強会にて学び、虐待が見過ごされることの内容職員同士が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度・権利擁護についてのないようを勉強会にて学び、活用できるように話し合いの下、支援している。	権利擁護に関する、資料やパンフレットを整備し、職員全員で研修し、理解した上で、利用者や家族に説明できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には利用者・ご家族に納得がいくよう説明し、理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・家族会の際に話の機会を設け、利用者・ご家族の意見を運営に反映させている。	日頃から家族の面会が多く、また、運営推進会議や、家族会、ホームのレクリエーションなど、家族が参加する機会を多く作り、意見や要望などを聴きだす努力をしている。出された意見は出来るだけホーム運営に反映できる工夫をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際や必要に応じて職員の意見を聞く機会を設けている。	職員会議を毎月定期的に行い、職員の意見や要望を聴き、検討して、職員の意見が運営に反出来るような取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働けるよう、給与アップへと努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用に当たっては、性別や年齢等では採用の有無は決めていない。	職員の採用は、年齢、性別の制限はない。特にやる気や人柄を重視している。また、休憩室や休憩時間を取り、職員の働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一度、人権啓発活動のセミナーへ参加しており、ミーティングの際にも再度勉強会を重ねている。	人権研修を受講し、高齢者の人権尊重を学び、職員全員が啓発活動に繋げる努力をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、内部・外部の研修・勉強会の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度近隣の施設へ夏祭りの参加をし交流の機会はあるが、勉強会やネットワークづくりへは取り組めていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の意見に耳を傾け話の出来る機会を設け安心感を与えられるように取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、ご家族の要望を出来る限り聞き入れる機会を設け関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりにあったサービスを提供する上で、当事業所では対応できない場合は、他のサービス利用への対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、どちらか一方だけが行うのではなく、介護者・利用者の方が協力し合い、共に支えあう関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支えていけるよう、常に話し合いの場を持ち関係づくりを築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている人との関係継続が出来る様、要望を取り入れ支援に努めている。	友人、知人、親戚、家族の来訪が多い。また、利用者の馴染みの場所を聴き、職員が同行するなど、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持ち、コミュニケーションが取れる様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、ご家族からの相談等は現在受けていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や思いを聞き、困難な場合は行動や表情を観察し把握に努めている。	勤務年数の長い職員が多いので、利用者と馴染みの関係であり、利用者の意向や思いを聴き取り、今したいこと、食べたいものなど把握することができ、利用者が安心して暮らせる環境である。また、新しい職員に対しても、まず、聴くこと、表情を良くみる事を徹底している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人に生活歴等が記入している記録があり、職員同士の連携により把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態観察・記録を行い、一日に2度の職員同士の申し送りがある。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、関係者等集まりがあり、ご家族の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	家族や利用者の要望に沿って、介護計画は4ヶ月毎に作成している。また、利用者の健康状態に合わせ、関係者と相談し介護計画をその都度見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人のケース記録に日々の状態を書き込み、職員間での情報交換を行いながら介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に合わせてサービス方針の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回避難訓練を実施し、消防署の方の居力を経ている。地域に図書館はあるが今の所使用はしていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人にかかりつけの主治医がおり、病院側と密に連絡体制をつくっている。	利用者や家族の希望で、入居前のかかりつけ医や往診可能な提携医を選択してもらい、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を常に観察し、全職員が把握し気づいた情報を週に一度訪問している看護師に伝えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の情報を出来る限り詳しく病院関係者との情報を伝え、入院中の情報等も病院側より頂き情報交換を行い早期の退院が出来るよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入所の契約の際に話し合っている。終末期についても出来る限りのことが出来るよう、その場に応じて話し合いの場を持っている。	看取りの指針を作成し、利用者の重度化や終末期に向けて家族や関係者と話し合い、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急訓練に参加しているが、すべての職員ではない。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、避難訓練を行っており、消防署の方にも参加いただき支持を仰いでいるが、地域の方との協力体制は出来ていない。	消防署の指導の下、避難訓練を年2回実施し、避難経路、避難場所を確認し、利用者が安全に暮らせる体制をとっている。また、夜間を想定した訓練についても検討中である。	地域住民の協力を得て、避難訓練に参加してもらい、夜間を想定した訓練の実施と、災害時に備え、非常食、飲料水などの準備が望まれる。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった声掛けを行い、排せつの際には他の利用者に聞こえないよう耳元で声掛けを行う。	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者の尊厳を守るために日頃から話し合いを重ね、実践に向けて取り組んでいる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り一人一人の希望をきけるように全職員で取り組みを行っている。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人にペースで過ごしている方もいるが、職員の都合で決まっていることもある。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んでいる方もいるが、できない方は、職員と一緒に手伝い身だしなみを支援している。	
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけ・食事は一緒に行っているが、調理は今のところ行っていない。	利用者は職員と一緒に配膳、下膳など身体を動かしながら行い、栄養士が作る季節の野菜を取り入れた美味しい食事を、同じテーブルで、笑い声の中で楽しく食べている。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリーが計算されており、一人一人の状態の応じて、おかゆや刻み食を提供している。	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者は口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつのパターンを把握するため、一人一人の排せつチェックにておむつの使用を極力減らせるよう支援している。	職員は、利用者の健康状態や排泄チェック表などで、その日の排泄パターンなどを想定し、優しい声かけや適切な誘導で、排泄の自立に向けた支援を実施している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎日の運動や食事・水分を心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴を行っている方もいるが、職員の都合で時間帯を決めている方もいる。	利用者の楽しみの一つである入浴は、一日おきに実施しているが、利用者の希望により予定を変更することもある。また、入浴を拒まれる利用者に対しては、無理強いせず利用者がある気になるまで、ゆっくり話をするなどして見守っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後よりお昼寝の時間があり、希望の方には30分～1時間ほど休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のお薬手帳・ケース記録に薬の内容が記載されており全職員が理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に役割を持っていただいている方もいる。また、気分転換のための外出や、楽しみごとの機会をつくっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の意見を尊重して、外出への援助やご家族との外出が出来るよう、協力のもと支援している。	職員は、外出好きの利用者と、日頃から話し合い、希望する場所に外出できるよう支援を実施している。また、玄関を一步出ると、そこは自然が溢れ、季節を肌で感じる事ができ、利用者の大きな楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することはないが、外出の際には使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りを行っている利用者も数名いる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くことがないよう、季節感を取り入れ花をおいたり、落ち着いた生活が出来るよう支援している。	広い庭と、ゆったりとした明るい建物は、利用者や来訪する人の心を穏やかにし、バリアフリーの室内は、利用者が安心して暮らすことのできる共用空間である。また、居間の畳のスペースでは、利用者と職員と一緒に洗濯物を畳む姿が見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居室があり、利用者同士と一緒に過ごせるソファがあり団らんの間を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に自宅で使用していたご本人の馴染みの品物を持ってきていただいている。	居室は、仏壇、テレビ、タンスなど、利用者の馴染みの物を、家族と相談しながら持ち込んでもらい、入居前とできるだけ変わらない、居心地の良い暮らしを支援するために、職員は日々努力している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排せつの場所がわかるよう大きな字で張り紙をしている。		